

第 25 回全国自然保護講座 in 滋賀 2022 年 7 月 9 日(土)~10 日(日)

主催：日本勤労者山岳連盟（自然保護委員会） 主管：滋賀県勤労者山岳連盟

場所：滋賀県比良山岳センター（比良げんき村内） 【報告：T 本幸造（自然保護委員長）】

『美浜・新庄ウインドファーム発電事業で 300 年生きたブナ林が伐採される』というので、その自然、環境破壊の実態を全国の仲間に知らせたいという事で全国労山自然保護講座を滋賀県で開催した。当初場所的に福井県で予定していたが、福井での開催に後ろ向きの理事長に良い返事がもらえず、隣県の滋賀県自然保護担当の K 内さんと M 内理事長が積極的にこの問題に取り組まれている事から、開催場所を日本一の琵琶湖を有する滋賀県で開催した。

9 日始まる頃には雷と土砂降りの雨の中ではあったが、講演会場は一杯で熱気に包まれていた。初めに滋賀県連盟会長の T 永会長が歓迎の挨拶を行って始まる。

講演は、NACS-J（各地で行われている開発計画と環境アセスに対し環境 NGO としての知識とネットワークを活かして科学的な視点から意見書を提出するなど希少な自然環境への配慮を事業者に促す取り組み）の若松伸彦氏にお願いした。若松氏は既にこの問題について滋賀県連の K 内さん等と現地視察や滋賀県知事に対し意見書を提出する提言などを行っている等して当講座の講演に打って付けの講演者であった。

若松氏の講演後、徳島から「四国地方における風力発電」と称して K 山委員が報告した。長野県からの風力発電建設計画の報告予定が、報告当事者が緊急の用事で来られなくなり資料のみの報告となった。3 番目に「南アルプスを壊すリニア計画」と称して T 本が報告した。4 番目に「全国の風力発電計画」を Y 本委員が紹介した。

夕食はご当地の仕出し屋さんの豪華弁当と、持ち寄りのお酒で交流した。

10 日は現地視察という事で、6 時半山岳センター出発で福井県までマイクロバスで移動。朝食はおにぎりで、車中で摂り途中コンビニにより 8 時半登り口に到着。視察場所は庄部谷山（856 ㍎）直下に作業用林道と、建設されている風力観測用鉄塔までとした。途中幹回り 3 ㍎近く樹齢 200 年はあるというブナを見ながら登山した。稜線地帯は、見事なブナが林立する中を、赤テープを目印に歩く。雨も何とか持ち堪え降られず目的の行程をこなすことが出来た。



滋賀県連 13名、岐阜県連 1名、京都府連 3名、神奈川県連 1名、奈良県連 2名、岡山県連 1名、和歌山県連 2名、山口県連 1名、千葉県連 1名、愛知県連 1名、東京都連盟 2名、全国自然保護委員 8名、全国連盟会長 1名、講師の若松氏を入れて総勢 38名の参加。



参加者 24名 観測用鉄塔前…撮影 T本